

# 感動一点の場

『農民達』

1942年 小川原 脩 画



小川原脩は、犬を題材とした多くの絵を遺したが、最初に犬が登場する作品は「大北海道」（1941年・道立近代美術館蔵）である。次いで1942年の「農民達」にも犬が描かれる。

右から左へと歩みを進める農婦と馬。農婦たちの足元は半分ほど白い雪に埋もれて、雪原を歩いているのだと分かる。馬の手綱を引きながら、後ろを振り返る中央の女性だけが顔を見ることができ、風除けの頭巾で表情は読み取れない。前掛けははためき、向かい風の中を進む。犬はどこか。農婦のひとりの足元の奥に、少年に力いっぱい引っ張られながらも、四肢を踏ん張る一匹の犬がいる。

時代は太平洋戦争のさなか、小川原は1941年に召集令状を受け日満州へと出征し、翌42年には戦地で病にかかり送還されている。シュルレアリスムの表現に没頭していた小川原だったが、戦地からの帰還後、中世ヨーロッパを模倣した平面的な作品へと変容し、周囲が驚いたという。皆が一様に同じ方向へと流れる世相のなか、進むことを拒む犬にどのような想いを託したのだろうか。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

## —ぼろぼろの枝—

雪解けが進むあたたかな日、雪原に若木の先端がひょっこり顔を出します。近くで見ると若木の周囲1センチほどは雪が融け、幹に沿って雪中に空洞が続いています。さらに注意してみると、幹が異様にぼろぼろになっているではありませんか。まるで誰かが彫刻刀で削り取ったかのような傷でいっぱいです。

実はこれ、エゾヤチネズミの食痕です。周囲に小さなふんがたくさんあれば間違いありません。少し掘れば空洞から分岐する穴がいくつも伸びており、小さなネズミの生活感が実感できるでしょう。広い雪原のどこから、この幹の樹皮を食べるためにエゾヤチネズミが訪れたのです。

ネズミの仲間が土に穴を掘って生活している最大の理由は鳥やキツネなどの外敵から身を守るためです。よって、土から地上へ出るのは外敵から見つかりにくい夜がほとんどになります。彼らが暗い夜、私たちの目にも触れないところで活発にエサを求め、動き回っているのにはそういう訳があったのです。ところが雪が積もれば話は別で、エゾヤチネズミは土から解放されます。雪のあるところなら縦横無尽にトンネルを掘ることができるため、地面（雪面）から出ずとも、餌となる植物の種や芽、樹皮を探し回れるようになります。ひよっとすると、積雪深が3センチに達することもある冬の倶知安はネズミのパラダイスかもしれませんね。

文：上井 達矢（倶知安風土館 生涯学習専門員）

# ふる探訪

418回



▲エゾヤチネズミの痕跡（風土館周辺にて）

## 展覧会のお知らせ

### ■常設展示

「小川原脩展 アジアの街角で」

小川原脩は晩年の大きな転換点ともいえるアジアへの旅で、中国桂林、チベット、インドのそれぞれの風物に、鮮烈な印象を受けました。小川原脩が描いた、アジアの街角で人と動物たちが繰り広げる悠々とした時間。あたたかな色彩に包まれた作品をどうぞご覧ください。

会期：開催中～4月15日（日）

### ■企画展示

「徳丸晋 写真展『水面』— minamo —」

会期：開催中～2月4日（日）

「くっちゃん ART2018」

今年で10回目を迎える「くっちゃん ART」は、倶知安町はもとよりニセコ・羊蹄山麓周辺で芸術活動に身を置く作家、さらにはそれらの作家と交流のある海外在住の作家が多様な表現による多彩な作品を持ち寄り、さらなる交流を深める、この地域ならではの国際性を反映したユニークな展覧会です。小さな美術館で、多くの作家が集う、賑やかな展覧会を開催します。

会期：2月10日（土）～4月15日（日） ※初日観覧無料

## アート・イベントのお知らせ

### ■土曜サロン アート探訪〈みて☆きいて〉11

「マリー・ローランサン～私は贅沢が好き」

パステルカラーに黒い瞳、優雅な色調の女性像を描き続けたマリー・ローランサン。パリの下町に生まれ、貧しい環境の中で育った彼女が目指した「贅沢」とは、一体何だったのでしょうか。

日時：2月3日（土）14時～15時

講師：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

### ■アーティスト・トーク

「くっちゃん ART2018」

出品作家に、ご自分の作品について、背景や技法、そこに込められた思いなどをさまざまな角度からお話ししていただきます。

日時：①2月10日（土）10時30分～12時（観覧無料） ②2月24日（土）14時～15時30分（要観覧料）

会場：当館第2展示室

### ■アート・パフォーマンス

「筆が舞う」

「くっちゃん ART」の出品者である書家の荒野洋子さんによる公開制作。そのダイナミックな筆の運び、筆づかい、そして一瞬の動きに込められた書家の気迫を目の前で感じ取ってください。

日時：2月10日（土）14時～14時30分

講師：荒野洋子さん 会場：当館ロビー（無料）

### ■アート・シネマ館

「フリーダ」2003年/123分/アメリカ・カナダ・メキシコ（字幕）

大事故の後遺症に苦しみながらも、絵を描くことに生きる希望を見出したフリーダ・カーロ。過酷な運命に翻弄されながら、愛と芸術に生きた47年間の壮絶な生涯が鮮やかに甦ります。

日時：2月17日（土）14時～16時10分

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）



小川原脩記念美術館 倶知安風土館  
☎ 21-4141 ☎ 22-6631

開館時間は9時～17時  
（入館は16時30分まで）

1月の休館日  
5～9日（展示替え休館）、13日、20日、27日

## ミュージアムは楽しい！

展覧会場に足を踏み入れて、度肝を抜かれた。足元も空中も、見渡す限り、骨、骨、骨。手の平サイズから10メートルを超すものまで。ここは、上野の国立科学博物館。この公園には学生時代から何度足を運んだことだろう。ただ、いつも敷地内の数ある美術館にばかり足を向け、科学館は素通りだった。

そこでは、実にさまざまな種類の恐竜たちが生き生きと暮らしていた。骨格標本ではあるが、展示の妙だろうか、息遣いさえ伝わってくるようだ。見る側の子どもも大人も、日本人も外国人も目が輝いている。常設の展示室で、こんなにも熱心なお客さんを見るのは初めてかも知れない。小川原脩記念美術館にも生かしたい、とつくづく思ったものだ。

館長 柴 勤